学校番号	３０１８

令和８年度　理科

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	新編　化学基礎　（数研出版）						
副教材等	新課程 Visual Select 化学基礎ノート　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・高校の理科は、学習内容が専門化して、物理・化学・生物・地学の４科目に分かれます。
・１年生では、すべての自然科学の基礎となる化学の基礎的な項目を学びます。後に生物や地学を学ぶときにも、化学の知識が必要になります。
・受け身の学習態度ではなく、頭が柔らかくて新しい知識の吸収が速い１年生のうちから、積極的に自分の考えを発表できるようになって、できれば得意科目にしてしまいましょう。
・授業は教科書を基本として、副教材（化学基礎ノート）への書き込みをしながら進めます。ノートは定期考査のたびごとに点検して、学習の進捗状況を確認します。
・化学基礎ノートの提出と前後して、小テストを行います。各自の到達度のチェックとともに、定期考査への励みとなるよう、有効活用できるものとします。

２　学習の到達目標

中学校までに学んだ理科の知識を土台に、自然現象を化学的に捉えて考える資質と能力を次のとおり育成することをめざす。
(1) 原子・分子を中心とした物質の基本単位の扱いに慣れ、電子配置や化学結合といった基本的な化学の概念や原理・法則を体系的に理解する。
(2) 原子量からはじまって、分子量・式量など、物質のなりたちを数量的に把握する力、また化学反応の前後における量的な関係を的確に化学反応式に置き換える力を養う。またできるだけ早い段階で物質量（モル）の概念に慣れ、種々の計算問題を解決していくなかで、過程や結果を考察する力を養う。
(3) 日常生活にも関連の深い「酸と塩基・中和反応」や「酸化と還元」のしくみを化学的に理解し、さらに発展的な内容に取り組む態度や創造性を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	物質の構成と物質の変化に関する基本的な概念や原理・法則を体系的に学ぶことでそれらを十分に理解して化学的なものの見方を身に付け、基礎的な実験操作を行うことができる。	物質の構成と物質の変化に関する基本的な概念や原理・法則を、図表や数式、グラフなどを有機的に関連付けて理解し、計算問題を通じて量的な関係の取り扱いに慣れ、表現することができる。	物質の構成と物質の変化に関する知識をもとに、身の回りのさまざまな物質に興味・関心をもって接し、化学的な視点から捉えようとする意欲がみられる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	物質の構成と粒子	・混合物と純物質 ・物質とその成分 ・物質の三態と熱運動 ・原子とその構造 ・イオン ・元素の周期表	a:必要な元素記号を暗記し、その組み合わせによってさまざまな物質を表現することができる。 b: 自然界に存在する様々な物質を的確に分類することができる。 c:原子の構造と元素の周期表とを有機的に関連付けることや、生徒実験での簡単な実験操作に興味・関心をもって主体的に取り組んでいる。	定期考査	定期考査	提出ﾌﾟﾘﾝﾄ 提出ﾉｰﾄ
	粒子の結合	・イオン結合とイオン結晶 ・分子と共有結合 ・共有結合の結晶 ・金属結合と金属	a:イオンの生成、共有結合のしくみや、分子と呼べるものと呼べないものとがあることへの理解が進んでいる。 b:化学結合と物質の化学的性質との関連性を理解し、指摘することができる。 c:化学結合に興味をもち、その種類に応じてその化学的性質が表れるに至る理由について主体的に調べ、まとめることができる。	定期考査	定期考査	提出ﾌﾟﾘﾝﾄ 提出ﾉｰﾄ
2	物質量と化学反応式	・原子量・分子量・式量 ・物質量 ・溶液の濃度 ・化学反応式と物質量	a:原子量や物質量の定義を理解することができる。 b:原子量をもとに分子量や式量を、物質量をもとに濃度をそれぞれ計算によって求めることができる。 c:物質量など原子や分子などの粒子の量の表し方に興味をもち、考えることができる。	定期考査	定期考査	提出ﾌﾟﾘﾝﾄ 提出ﾉｰﾄ

	酸と塩基	・酸・塩基 ・水の電離と水溶液のpH ・中和反応と塩 ・中和滴定	a:酸・塩基・中和反応の定義を理解することができる。 b:水素イオン濃度とそこからのｐH の計算に慣れ、確実に求めることができる。 ｂ:中和反応を反応式で書くことができる。 中和滴定のやや複雑な操作の意味を理解し、得られたデータをもとに考察することができる。 c: 身近にある酸塩基について興味をもち、調べたり観察することができる。	定期考査	定期考査	提出ﾌﾟﾘﾝﾄ 提出ﾉｰﾄ
3	酸化還元反応	・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤 ・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の利用	a: 酸化数の定義をもとに酸化還元反応の意味を理解することができる。 a:電池が金属の酸化還元反応を応用したものであることを理解することができる。 b:電気分解が電池の逆反応であることを理解し、電極における化学変化を考察することができる。 ｃ:電池や電気分解に関する実験に興味・関心をもって主体的に取り組んでいる。	定期考査	定期考査	提出ﾌﾟﾘﾝﾄ 提出ﾉｰﾄ

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度